

2019年度 施策マネジメントシート【2018年度実績評価】

作成: 2019年 6月 11日

施策番号 3-3-2	施策名 廃棄物の抑制と適正な処理	対象 市民・商工業者・農業者・廃棄物の量	基本目標 快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり
			政策名 自然と調和した生活環境の整備と環境の保全
	主管課 市民生活課	課長名 藤野 元成	内線 111
	施策関係課 農林課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
町民、事業者、行政が一体となり、それぞれの役割と責任を果たし、ごみの減量化や資源化、廃棄物の適正処理に取り組み、循環型社会の構築を推進します。		市民・商工業者・農業者・廃棄物の量		家庭系・事業系ごみの排出量の減少とリサイクルによる資源の有効活用をすすめる				リサイクルなどの資源化による循環型社会を築き、環境と調和した産業の健全な発展につなげる	
成果指標		説明		単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 町民1人1日あたりのごみの排出量		(年間総ごみ排出量 - 資源ごみ) / 365日 / 人口		g	564.53	589.07	585.48	496.47	
② リサイクル率		家庭系資源ごみ総排出量 / 家庭形総ごみ排出量		%	33.3	35.2	34.9	35.7	
③									
成果指標 設定の考え方	① 1人1日あたりのごみ排出量を減量する施策を講じる必要があることから成果指標に設定。 ② 家庭系ごみのリサイクルによる資源化の推進が、ごみの減量に繋がることから成果指標に設定。								

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費 (千円)	214,841	198,944
人工数(業務量)	1.0734	1.1382

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①②とも前年度と大きく変わらない→生活スタイルに変化がない
② 第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	・リサイクル率は微増となったものの目標値を達成できなかった。 ・ごみ排出量は策定時よりも増加という結果となった。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	資源ごみ収集処理事業 資源物集団回収支援事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	●ごみの減量化と資源化 →生活様式の多様化等によりごみの減量には至らなかった。 →現在の分類の分別排出による資源化を維持・継続できたが、リサイクル率は微増に留まった。 →農業廃棄物のエネルギー化実証実験を行いペレットの製造を検討してきたが断念した。 ●廃棄物の適正処理 →ごみの分別排出により適正処理が継続されているが、不法投棄について課題が残る。 →農業廃プラスチックの定期回収など適正処理が継続された。		

進捗結果	A	B	C	D	E	
				○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した
- C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した
- D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない
- E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ・ごみの減量化と分別による適正排出について継続して取組む必要がある。 ・農業廃棄物を原料としたペレット製造を断念 《今後の予測》 ・海洋汚染問題によりレジ袋有料化などプラごみの排出削減と適正処理に向けた動きや、コンビニ各社が食品ロス削減への動きが加速→ごみ削減への意識向上が図られる。 ・高齢化によりごみ分別が困難な世帯の増加→ごみ適正排出への支援の必要性が高まる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	・リサイクル率向上: 廃棄物のさらなる資源化の可能性を研究・検討すべき。 ・不法投棄対策: どのように減らしていくのか。 ・ごみステーション: ごみネット、サークルを無償提供してほしい。 ・資源物集団回収: 助成単価を引上げてほしい。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

●課題① 廃棄物の適正処理と3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進 ごみ減量への意識啓発や指導を継続し、本町らしい資源循環型社会の構築を目指す。
●課題② 不法投棄防止の啓発 環境保全意識の啓発と、関係機関との連携や住民の協力による監視体制の充実を図る。
●農業廃棄物の適正処理 農業用廃プラスチック処理について、昨年度、負担割合を決め、今後も継続して適正処理に努めていく。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	家庭系ごみの指標の推移は大きく変わっていないため、策定期と比較して変わらないと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	関係機関と連携してごみの減量化等を進めてもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	成果指標はほぼ横ばいであり、策定期と比較して変わらないと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	・ごみの問題は全国的な問題であり、上手く処理している都市を参考に検討してもらいたい。 ・食品ロスの問題は一般の方への啓発にあわせて、食育やお金の教育などの観点からも指導を行ってもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					